

平和を守れ！「戦争法案」の成立を阻止しよう

安倍晋三内閣は14日、「戦争法案」の閣議決定を強行、翌15日には同法案を国会に提出しました。これを受けて日本共産党上越市議団、上越地区委員会は市内各地で一斉に街頭宣伝を行いました。私も14、15日と地区委員会の大型宣伝カーに乗り込み、宣伝を行いました。(写真は柿崎区内での街頭演説の様子です)



同法案には、①米国が世界のどこであれ戦争に乗り出せば自衛隊は「戦闘地域」で軍事支援をする、②戦乱が続く地域で自衛隊が武器を使って治安維持活動を行う、③集団的自衛権を発動して米国の無法な戦争に自衛隊が参戦する—という憲法破壊の大問題があります。いずれも、戦争放棄を掲

げる憲法9条の下で歴代政府が曲がりなりにも設けてきた「歯止め」をことごとく投げ捨てるものです。同法案は絶対に許してはなりません。

街頭演説で私は、「今年は戦後70周年という節目の年。これまで日本は世界各国から『戦争しない国』として高い評価を受けてきた。それを安倍内閣は根底から覆し、『戦争する国』へと転換させようとしている。上越市では先の大戦で4500人からの青年たちが戦地に赴き、生きてふるさとの地を再び踏むことができなかった。青年を再び戦場へ送ってはならない。そのためにも今回の戦争法案は絶対許されない。思想信条の違いを超え、同法案を廃案に追い込もう」と訴えました。

県議選から1カ月ちよつとということもあってか、手を振ってくださる方、クラクションを鳴らしてくださいの方などが大勢おられました。浦川原区では、街頭演説後、電動シニアカーのそばを通り抜けた瞬間、乗っていたおばあちゃんが左手をすつとまっすぐ挙げてくださいました。

上越市の新総合事業の取組などに注目

にいがた自治体問題研究所の福島副理事長などが18日、上越市を



訪問し、4月から改悪された介護保険制度の実態調査を行いました。これには研究所の会員になつている日本共産党上越市議団のメンバーやくびき野地域問題研究所の後藤代表、それに私も参加しました。

注目されたのは新しい介護予防・日常生活支援総合事業(新総合事業)への上越市の対応です。県内市町村では上越市と南魚沼市だけが今年度から取組をスタートさせ、他は見送っています。なぜ今年度から取り組むことにしたのか、これまでもよりサービスが後退しないかどうかを中心に質疑や意見交換(写真左)が活発に行われました。新制度に移行してまだ1か月半です。今後、他

上越市における介護保険認定状況 (2015年3月31日現在)

	1号被保険者				2号被保険者		合計	
	65~74歳		75歳以上		40~64歳		人数	比率
	人数	比率	人数	比率	人数	比率		
要支援1	175人	13.6%	1,229人	10.5%	23人	8.1%	1,427人	10.8%
要支援2	209人	16.3%	1,771人	15.1%	49人	17.2%	2,029人	15.3%
要介護1	197人	15.3%	2,128人	18.2%	26人	9.2%	2,351人	17.7%
要介護2	250人	19.5%	2,123人	18.2%	65人	22.9%	2,438人	18.4%
要介護3	170人	13.2%	1,753人	15.0%	42人	14.8%	1,965人	14.8%
要介護4	138人	10.7%	1,493人	12.8%	37人	13.0%	1,668人	12.6%
要介護5	147人	11.4%	1,193人	10.2%	42人	14.8%	1,382人	10.4%
合計	1,286人	9.7%	11,690人	88.2%	284人	2.1%	13,260人	100%



【ユキザサ】ユリ科の多年草。漢字で、「雪笹」と書きます。名前の通り、葉は笹のような形をしています。花は白色です。笹の葉に雪がのった感じに見えますね。写真は吉川区にて撮影しました。

市の取組なども調査し、サービスを後退させない取組をやっていく予定です。

はしづめ法一の活動レポート

No.1708 2015.5.24
 発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見え方」はこちら


春よ来い

第三五六回 アイスクリーム

母にはアイスクリームの美味しさを忘れることができない思い出があるのかも知れません。最近、私の顔を見るなり、「アイスクリーム、いらんか」と訊いてくるのが多くなりました。

先日午後二時近くになって、突然、私に「おまん、アイスクリームいらんか」と訊いてきました。時間が時間ですから、私は即座に、「こんな時間にいらん」と言いました。すると、母はもう一度、「いらんか？」と訊いてきたのです。母の質問を振り払うように、私は「いらん、いらん」と答えました。

この日、母は昼間の時間帯に採ってきた笹の葉を一枚ずつ「プチッ」という音を立てながらもぎ取り、大中小の大きさに分けていました。母は九一歳です。早めにこの作業をやっておかないと笹自体が使い物にならなくなってしまいうこともありますが、こんなに夜遅くまで頑張って仕事をしていて大丈夫なのかと気がもめました。

アイスクリームを食べないかという母の問いかけは、そんな心配をしている時でしたから、何か不意打ちを食ったような気分でした。

私が初めてアイスクリームなるものに出合ったのは小学校へ通い始めた頃か、その前だったと思います。当時、私が住んでいた吉川区の尾神岳のふもと、螢場に自転車に乗ってアイスクリームを売りに来た人がいました。正確にはアイスと呼んだ方がいいのかも知れません。

その人がどういう人かについては、男性であったこと以外はまったく記憶していません。おそらくアイスばかりに気がとられ、自転車に乗って売りに来た人の顔なり、服装なりを観察する余裕がなかったのでしょう。いまから考えると、当時の道は舗装してあるわけではなく、たいへんな悪路だったはず。よく螢場まで来てくださったものだと思います。

男性が売りに来たアイスは今まで言うアイスバーです。夏の暑いさなかに冷たいものが食べられる、それ自体、大きな喜びでした。もうひとつは甘みです。冷たさとともに口の中で広がる甘さがなんとも言えませんでした。

わが家では私を含め、キョウダイみんなが喜んでアイスを食べたのは言うまでもありません。一度食べれば、また食べたくなります。アイスを売りに来る人を待つようになりました。

それだけではありません。アイスづくりにも挑戦しました。もちろん、まだ冷蔵庫が導入される以前のことです。冬の寒さが最も厳しい二月の頃だと思えます。凍っても大丈夫な入れ物に水と何か色のついたものを入れ、凍らせようと思いました。美味しいものが出来上がってれば、記憶にしっかりと残っているはずですが、残っていないというよりは多分、うまくいかなかったのでしょう。

笹の葉もぎの作業を深夜までやっていた翌日もアイスクリームのことが母の口から出ました。午後四時頃でした。三輪自転車に乗って買い物に行ってきた母が県道柿崎牧線を横断したところで私の姿を見つけ、「アイスクリーム、いらんか」と訊いてきたのです。この時は、「じゃ、もらう」と答えました。母は、自転車のかごに入った袋の中に手を突っ込み、細かいカップに入ったバナラアイスを一袋渡してくれました。

母の頭の中では、自分の子どもたちが幼いころアイスを喜んで食べていたことが強く印象に残っているのでしょうか。

吉川区体協が青少年の活躍に注目し、表彰式

吉川区体育協会の平成26年度表彰式と27年度レセプションが17日にあり、参加してきました。

表彰されたのは昨年度、剣道、陸上競技、テニスで活躍した12人の選手のみなさんです。

剣道での活躍はいろいろところで見聞きしていましたが、テニスでも頑張っていることは知りませんでした。

記念講演では高士区で頑張っている高士体協副会長の横川英男さんが、同区での地域活動支援事業を活用したスポーツ活動の取組などについて語っていただきました。

交流会は賑やかでした。私は乾杯の音頭をと要請されたので、剣道だけではなく、テニスなどでの活躍にも注目していること、また私の中学時代における

テニスの試合をめぐるエピソードなども紹介してもらいました。横川さんは私と同一年で、誕生日が1日しか違わないということです。「私の夢は牛のお医者さん」に登場した高士地区の家畜商だったOさんのこと、県議選のことなどで話ははずみました。



山にあるタケノコが採れ始めました。写真は直江津の三八市にて撮影。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことです。

	5月13日(水)	5月20日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.050	0.043
頸北消防署	0.050	0.047
頸南消防署	0.053	0.053
東頸消防署	0.050	0.040
高士分遣所	0.050	0.047
名立分遣所	0.056	0.057



春よ来い

第三五六回 アイスクリーム

母にはアイスクリームの美味しさを忘れることができない思い出があるのかも知れません。最近、私の顔を見るなり、「アイスクリーム、いらんか」と訊いてくるのが多くなりました。

先日午後一二時近くになって、突然、私に「おまん、アイスクリームいらんか」と訊いてきました。時間が時間ですから、私は即座に、「こんな時間にいらん」と言いました。すると、母はもう一度、「いらんか？」と訊いてきたのです。母の質問を振り払うように、私は「いらん、いらん」と答えました。

この日、母は昼間の時間帯に採ってきた笹の葉を一枚ずつ「プチッ」という音を立てながらもぎ取り、大中小の大きさに分けていました。母は九一歳です。早めにこの作業をやっておかないと笹自体が使い物にならなくなってしまうこともあります。こんなに夜遅くまで頑張って仕事をしていて大丈夫なのかと気がもめました。

アイスクリームを食べないかという母の問いかけは、そんな心配をしている時でしたから、何か不意打ちを食ったような気分でした。

私が初めてアイスクリームなるものに出合ったのは小学校へ通いだした頃か、その前だったと思います。当時、私が住んでいた吉川区の尾神岳のふもと、螢場に自転車に乗ってアイスクリームを売りに来た人がいました。正確にはアイスと呼んだ方がいいのかも知れません。

その人がどういふ人かについては、男性であったこと以外はまったく記憶していません。おそらくアイスばかりに気がとられ、自転車に乗って売りに来た人の顔なり、服装なりを観察する余裕がなかったのでしょう。いまから考えると、当時の道は舗装してあるわけではなく、たいへんな悪路だったはず。よく螢場まで来てくださったものだと思います。

男性が売りに来たアイスは今まで言うアイスバーです。夏の暑いさなかに冷たいものが食べられる、それ自体、大きな喜びでした。もうひとつは甘みです。冷たさとともに口の中で広がる甘さがなんとも言えませんでした。

わが家では私を含め、キョウダイみんなが喜んでアイスを食べたのは言うまでもありません。一度食べれば、また食べたくなります。アイスを売りに来る人を待つようになりました。

それだけではありません。アイスづくりにも挑戦しました。もちろん、まだ冷蔵庫が導入される以前のことです。冬の寒さが最も厳しい二月の頃だと思えます。凍っても大丈夫な入れ物に水と何か色のついたものを入れ、凍らせようと思いました。美味しいものが出来上がってれば、記憶にしっかりと残っているはずですが、残っていないというよりは多分、うまくいかなかったのでしょう。

笹の葉もぎの作業を深夜までやっていた翌日もアイスクリームのことが母の口から出ました。午後四時頃でした。三輪自転車に乗って買い物に行ってきた母が県道柿崎牧線を横断したところで私の姿を見つけ、「アイスクリーム、いらんか」と訊いてきたのです。この時は、「じゃ、もらう」と答えました。母は、自転車のかごに入った袋の中に手を突っ込み、細長いカップに入ったバナラアイスを一箇渡してくれました。

母の頭の中では、自分の子どもたちが幼いころアイスを喜んで食べていたことが強く印象に残っているのでしょうか。

吉川区体協が青少年の活躍に注目し、表彰式

吉川区体育協会の平成26年度表彰式と27年度レセプションが17日にあり、参加してきました。

表彰されたのは昨年度、剣道、陸上競技、テニスで活躍した12人の選手のみなさんです。

剣道での活躍はいろいろところで見聞きしていましたが、テニスでも頑張っていることは知りませんでした。

記念講演では高士区で頑張っている高士体協副会長の横川英男さんが、同区での地域活動支援事業を活用したスポーツ活動の取組などについて語ってくださいました。

交流会は賑やかでした。私は乾杯の音頭をと要請されたので、剣道だけではなく、テニスなどでの活躍にも注目していること、また私の中学時代における

テニスの試合をめぐるエピソードなども紹介してもらいました。横川さんは私と同年で、誕生日が1日しか違わないということです。「私の夢は牛のお医者さん」に登場した高士地区の家畜商だったOさんのこと、県議選のことなどで話ははずみました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことです。

	5月13日(水)	5月20日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.050	0.043
頸北消防署	0.050	0.047
頸南消防署	0.053	0.053
東頸消防署	0.050	0.040
高士分遣所	0.050	0.047
名立分遣所	0.056	0.057

16日、高田図書館での文学講座に出てきました。このところ、原発集会や憲法九条の会などで一緒に片岡豊さんが講師です。

この日は夏目漱石を通して今を考えるシリーズの第1回。

漱石は日露戦争の時から小説を書き始めたそうですが、「作品にはひとつとして同じ手法で書いたものはない、一つひとつの作品を書くにあたってはいつも新たな挑

をしている」「友人の正岡子規とともに落語大好き人間だった」「漱石の幼少期はけっして幸せではなかった」など興味深いことが次々出てきて、話に引き込まれました。

漱石を通していまを考える

今回、漱石をとりあげられたのは、「日露戦争後の10年がいまの政治状況などと似ている」ということが背景にあります。今後の講座の展開がどうなっていくか楽しみです。